

話題満載

内船歌舞伎

伝承される 手づくりの舞台

12月3日 内船歌舞伎保存会による
12月公演が文化ホールで行われ、町内
外から300人を超える観客が、この
日を楽しみに集まりました。



「あ、さてー」子供ながらに堂々と

おめーというやつは



それっおとととー



来年の公演が待ち遠しい、すばらしい舞台でした。関係した皆さん、お疲れ様でした。

健康びんごのびんご

お腹で歌って笑って

12月12日 「南部町健康づくりのつどい」が文化ホールで行われました。
つどいでは、山本林さん（内船上）、末高恭子さん（楮根）が実践発表をし、介護予防事業「ゆずりは」教室参加者によるタオル体操等が披露されました。特に末高さんは、自身が脳内出血で闘病生活を強いられたとき「悲しみを感じない悲しみ」「感情が現れた喜び」を、そして現在「減塩とプールでの適度な運動を心掛けています」と発表しました。引き続き行われた講演会では、三笑亭笑三師匠を講師に招き「笑う長寿の秘訣」をテーマに「一つの言葉は心を持っていく。頭を空っぽにして笑い合える話をしましよ。う。」と話ながらではの語り口で会場を笑いで包みました。



お腹に力を!



保存会会員の手作りの公演は、5カ月前から毎週2回の練習を重ね、間近になると毎日集まるようになる。役者から裏方まで自分の役割を、誰に言われる事なく完璧にこなし、舞台・衣装等が整って行く。いよいよ公演当日、地元小学生による可愛い「子ども三番叟」、堂々と振舞った「子ども白浪五人男」で幕が開き、主題で「一の谷嫩軍記 一段目 一あばら屋の段」を上演。また、右左口人形浄瑠璃や幕間の日本舞踊も花を添える。身を乗り出して見守る観客の拍手・笑い声、ステージに飛び込む「おひねり」等が役者を盛り上げる。役者は身を震わせた演技で、それに応える。とても熱く、そして楽しい、公演が大盛況のうちに幕を閉じた。